

2019年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会（豊岡市分科会）  
会議録（要旨）

日時 2019年8月21日（水）  
豊岡市分科会 10:00～11:40  
場所 豊岡市役所3階 庁議室  
出席者 豊岡市分科会 6名中6名  
事務局 豊岡市（政策調整部長、政策調整課長、政策調整課課長補佐、政策調整係主査）

◎協議

分科会長	それではまず、事務局から共生ビジョン(案)について説明をお願いいたします。
事務局	<説明> 【共生ビジョン(案)】
分科会長	事務局から説明を受けました。共生ビジョンの変更におきましては、この懇談会が協議・懇談の場となっており、この場での検討を経る必要があります。質問等がありましたら、お出しいただきたいと思います。ご意見・ご質問はございませんか。
副分科会長	専門職大学ですが、2、3回説明を聞いてもよくわかりません。4年制大学だから、対象は高卒が入ってくるのですか？どういう人がここに来るのかわからない。
事務局	基本は高卒です。高校にも演劇部がありますが、演劇を大学に行って学べる場所は少ないので、そういった方々がここに来て、3分の1は実習なので、演劇自体も学ぶ機会があるでしょうし、さらにそれを職業とするための知識なども身につけるといことです。平田オリザさんの話を聞きますと、大阪のほうに有名なダンスの高校があつて、全国大会に行くような人たちが、これができたらここに来たいというような話があるようです。
副分科会長	懸念するのは、郷公園の中に県立大学ができていますね。地域資源マネジメント研究科ということで、地域資源を活用して、マネジメントをすることでありますが、なかなか進んでいないのです。県立大学のような苦勞をされないかという心配があります。 それともう1つは、ダンスが学べるというけれども、すでにもう城崎で（一社）ダンストークがあり、がんばっている方がおられますので、両方がよくなるようにお願いします。
副分科会長	もう1つ、このイメージ図を見ていて、ここは2004年の台風23号のときに浸水しています。資料ではあまり地盤を上げていないですね。大丈夫ですか？ちょっと指摘しておいてあげてください。
分科会長	事務局は、各担当のところに意見をつないでおいてください。
副分科会長	資料1の4ページ目、図書館ですけれども、KPIが蔵書点数となっていますが、図書館を利用する人数はどうですか？
事務局	具体的な数字は把握していません。
副分科会長	今、インターネットなどがあり、もう図書館に行かなくてもすぐにわかってしまいます。その中で、わざわざ文字文化で、図書館は相変わらず利用してくれるのかなど、少し気になりました。今の時代に合わせた図書館の活用方法を考えないと。

新聞もどんどん読まなくなりましたしね。

事務局

図書館の新しい利用の仕方については、いろいろと考えていまして、例えば、図書館本館前が芝生広場に改修されたり、囲碁・将棋ができるようなスペースを作ったりと、変わっていく動きがあります。

委員

確かに、この図書館利用の人数がほしいですね。

副分科会長

普通考えたら減っているはずですよ。このご時世なので。例えば、市役所の職員でも帰りに図書館に行って調べてみようかなというより、ちょっとマウスをピッとやったら出ちゃうじゃないですか。もっとすごく深く読もうとしたときだけとなると、当然減ってるんじゃないかなという気がしました。

委員

私は朝来市ですけれども、図書館に行くと、本を読んでいる人は少ないです。しかし、勉強している高校生や中学生が多いです。自分の家にいるとゲームがあったり、いろいろな誘惑があるので、図書館に行って勉強している。最近は使い道が変わっているかもしれません。本を探しに行くのではなく、勉強ができる環境を求めて使っている人が多いのではないかと思います。夏休みになったら、小さい子供が絵本の読み聞かせを聞いたりする様子を見かけます。

副分科会長

今の中学生や高校生の図書館の利用の方法を聞いていたら、そういう時代に相変わらず蔵書数が増えたからいい、というのはおかしいと思います。

委員

ボランティアでされている読み聞かせの活動にもっと目を向けて引き上げてほしいです。ボランティアで活動される方が少なくなってきています。もっとここを重要視して、図書館にお任せではなく、今してくださっている方たちにスポットライトを当てていただきたいと思います。

副分科会長

思い出したのですが、豊岡市の政策として、中貝さんが市長になられた頃に図書館をすごく重視され、学校で始まりと終わりの時間に読書をすることは、今もやっていますか？豊岡市が独自で自慢できるものは続けてほしいと思います。

分科会長

小学校の子どもがいるのですが、読書数は結構多いです。何冊読めとか、何ページ以上の本を読めとか、夏休みでも、例えば100ページ以上の本を10冊以上読みなさいとか、それを全て書き上げて、簡単な感想を書かせて、など、読書に関しては、小学校では力を入れておられるなという印象はあります。

分科会長

こちらの資料を見ても蔵書を増やす目的は、あくまで図書館の利用を増やすことが目的であると書いてありますので、KPIとしては利用者数も見ていただいたほうがわかりやすいと思います。

事務局

検討させていただきます。

副分科会長

5ページの観光入込客数ですが、私は職場が城崎ですが、すごい人です。すごい人なのに資料ではどんどん下降している。2016年ぐらいからインバウンドがどんどん増えているはずなのに。日本人が少ない？

事務局

インバウンドは伸びているのですが、観光入込客数に占める外国人はまだまだ少ないので、そこが2倍、3倍に増えても全体に与える影響は少ないというのがあります。ですから、日本人が増えないことには、なかなか数字は伸びてこないと思われます。

副分科会長

達成目標は520万人ですね。520万人は厳しいと思いますが、520万人に設定す

る根拠があるから 520 万人にしていたのですよね。城崎以外の出石など他にどこか増やさないと、何かの方法を考えないと増えないですよ。

分科会長

インバウンドは正直去年から少し止まった感じがあります。それまでは順調だったのですが、城崎がほぼ中心で、今は豊岡市さんとしては神鍋とか竹野にシフトして、なんとかインバウンド客を盛り上げていこうと取り組まれていまして、我々も協力しています。ただ、日本人のお客さんの減りがもう手をつけられない。ものすごい勢いで減っていきまして、道路がよくなればなるほど京阪神のお客さんが遠方に逃げてしまうという状況があって、痛しかゆしです。出石としては、名古屋とか広島など、今まであまり来られていない県に、道路がよくなったことを逆手にとって動いていますが、ライバルが強力でして、金沢や出雲などが敵になってきますので、なかなかうちとしてもうまくいっていない。この目標に何とか添いたいようにがんばっているのですが、正直厳しい。

豊岡市の観光はすごく特殊で、神戸や姫路のお客さん、同じ県内のお客さんが圧倒的に多いです。これはたぶん他の都道府県とは全く違う、北海道と兵庫県ぐらいです。日本人は県内をメインターゲットにしている関係上、神戸や姫路などで人口が減っていますので、その影響を受けていると思っています。もう少し情報発信力を強めていって、TTI さんを中心にごんばってくださいってはいますが、先ほどおっしゃったように、目標の修正が少し必要かなと、そろそろその時期に来ているのかなと思います。

委員

観光入込客数というのは、例えば神鍋で子どもたちや学生が合宿をしていますよね。その数はカウントしていないのですか。

分科会長

しています。宿泊はほぼしています。逆に、宿泊ではないものが微妙で、出石の場合、駐車場でカウントしているのが 70 万人ですが、県がカウントしているのは施設×人数で、20 何万人という公表になります。ですから、駐車場でカウントする 70 万人がいちばん僕らは近いと思っていますが、市とか県の正式発表は、26 万人だったか。なのでその誤差がずいぶんあり、特に立ち寄り系のお客さんに関しては、データの取り方も微妙です。宿泊はたぶんきっちりカウントできている。中貝市長は宿泊者数を根拠に話をされますので、そのほうがいいかなと思います。この数字で言えば、市内宿泊者数、こちらのほうが根拠のある数字だと私たちは思っています。

委員

城崎の駅前案内所をやっています。人数をカウントしているのですが、外国人の方は、去年ぐらいから少し伸び率が悪くなっています。おっしゃるように、以前は泊まりの外国人のお客さんが多かったと思うのですが、今年度に入ってから、日帰りで帰っていかれる方が多くなって、来てすぐ帰るみたいな、泊まらずに帰っていく。

分科会長

外国人の方は大阪を拠点にしている。ビジネスホテルを拠点にして、そこから日帰りで動かれるというのがあります。宿泊はずっと大阪です。

委員

竹野でも駅にいた若い子たちに、「どこに帰るの？」と聞いたら、2、3年前の大江戸温泉ができた頃は、「城崎に帰ります」と。若い子ですからね。竹野の民宿の天ぷらやお刺身よりも、バイキングがいいのでしょうか。今年、駅で聞きますと、

「特急で帰るんです」と言うから、日帰りになっている。本当にだんだんと宿泊が減ってきているなど。彼らも上手にお金の使いどころを考えています。

委員

コマーシャルも大事かなと思います。私は東京によく行くのですが、タクシーに乗ると「どこまで行かれるのですか？」と聞かれるので、「兵庫県」と言うと、「兵庫のどこですか？宝塚？神戸？」と。どこ知っているかなと思って。「城崎」だったらパーフェクトに伝わります。「城崎温泉、行きたいです」とか「行ったことがあります」となります。今コウノトリを一所懸命、個人ながらコマーシャルしています。「行きたいと思うんです」とおっしゃる方はたくさんおられます。でも、パスポートがいるような感覚なのです。こっちから東京に行く人も、昔の年代の人なんかは「そんな、日帰りで」とおっしゃる方もおられますけれども、日帰りで行けますよね。もっともっとアプローチしていく必要があると思いました。

委員

観光といっても行くだけではつまらなくて、そこで何をするかというのが大事。何かがあって、それを目的に行くということがいいなと思います。だから、演劇の国際アートフェスティバルなどがあれば、そこに人が来るとか、そんなことも考えられますよね。

委員

以前、平田オリザさんの話を聞いたときに、日帰りをなくそうと思ったら、夜を充実させないといけない。昼間に来る人は帰ってしまいます。夜にしか見られないものを重点的にやっていけば、どうしても泊まらないといけない。豊岡市を中心にして、演劇でまちづくりをしていって、それが夜、開演されれば、どうしても泊まらないといけない。それが毎日いろいろな演目があれば滞在日数も増えて行くという話もされていたので、本当にうまくいけば、豊岡は変わるのではないかなと。豊岡だけではなくて、但馬全体を知ってほしいなと思いますが。

事務局

城崎で宿泊された方は、そのあと出石に行ったり日高に行ったりと、連泊だったり回遊というところについては、どんな感じでしょうか。

委員

感覚的には、城崎に泊まれたら城崎の周辺でおられるような気がします。「出石にどうですか」とか、「竹野にどうですか」とかいうご提案をするのですが、そのあたりがうまく訴求できていなくて、城崎なら城崎にずっといらっしゃるように思います。もう少し回遊してほしいなと思います。

委員

「たじまわる」はどうですか。

委員

「たじまわる」は徐々に伸びていますが、便に10人ちょっとぐらいなので、30～40人乗れるバスに10人になりますので、もっと乗ってほしいなと思います。

分科会長

知っている人は、すごく評判いいです。ホームページでも全面に出して、宣伝されているのですがなかなか難しいですね。

委員

今の運行が、利用方法、ニーズ等に合っていないのではないかと、常に県と調整しながらやっています。もう少し広域にしたほうがいいのかとか、もう少し小さくしたほうがいいのかとか。

分科会長

今は、難しいですね。お客さんの望むところが全く違うので。何かすると、この一部のお客さんには合いますが、こっちのお客さんには逆に合わないで、敬遠されるのか。家族層を狙うのか、夫婦を狙うのか、インバウンドを狙うのかで異なるので、それを一概に平均化して取ってしまうと、たいがい失敗してしまいます。

有難いことに豊岡市って、それぞれのまちの強みがみごとに違うんです。これは、すごいことで、当然これだけのまちがあったら、バッティングする部分があるのですが、メインにするところがみんな違うのです。だから、本当にうまく連携できて、みんなでシェアしあえればもっともっと魅力が増すまちになると思っているのですが、アクセスが。それは全但バスさんに頑張ってもらわないと。

副分科会長

6ページの2段目の、コウノトリの定着羽数、これは増やしたらいけません。なぜかと言うと、1ペアのテリトリーをすごく広くとる鳥ですから、テリトリーが窮屈になると同種間の争いばかりになります。近親婚が出てきたり、変なことになってしまいますので。今少しずつ広がっているけれども、これからもどんどん全国に広がらせないと。豊岡はもっと少なくても私はいいと思います。

分科会長

皆さん、他に何かご質問等ありますか。

委員

8ページ、説明にもありましたけれども、受診者数が減っているというのは健康増進上いいという評価もできるので、何か不調と書くのもどうかという気がします。豊岡市さんの場合、健康増進事業に力を入れておられるので、減ってもおかしくはないかなというのがありますし。他のまちでは過疎化が進んでいて、利用者数が減っていくので存続するかどうかについて指標を使われていることもあります。もっと違う数値を使ったほうがいいかなと。何がいいのかはわかりませんが。

事務局

指標として何がいいのかが難しいところです。この指標だと増えるのがいいのか、下がるほうがいいのかというのがありますが、内容次第なのかなと思っています。大きな増減がなければ順調と言っていると思っています。達成状況のこの欄につきましては、一律にひとつの基準で表現していますけれども。

委員

例えば、医療の充実という話でいけばいいと思います。医療従事者数が少なくなって、特に過疎の地域に行けば大きな問題になっているので、手厚くスタッフがいますよ、となれば、それは充実につながるし。

事務局

今回は、豊岡市の分科会ですけれども、但馬分科会のほう、冊子の10ページで、医療体制の確保の指標を医師数としています。こちらは豊岡病院組合の医師数ですが。

委員

同じようにしたほうがいいと思います。

事務局

診療所の医師数でいくと、たぶん増減はないと思われます。診療所が増えたり減ったりしない限り。ただ、言われるように、受診者数では好調か不調かというのはわからないと思います。ここはまた検討してみます。

分科会長

他に何かございますか。

副分科会長

いちばん気になるのは、定住だったら子育て支援。先日、明石の市会議員と話していたら、子育て支援がすごいです。明石を選択される方が多いと聞きました。子どもに対する支援も充実しているし、保育園で働く人がすごく充実していて、契約社員から正職になることがすぐにできますし、反対に契約のほうがいいとか、働き方改革をすごくやっています。若いお母さんがどこを選ぶかと言えば明石。但馬でどこを選ぶかといえば、豊岡は子育てがすごい、のようになってほしいなと思いました。保育士の給料もいいらしいです。仕組みというか、行政視察か何かで、聞かれてもいいかと思います。一度調べてみる必要があるかなと思います。

事務局

今、豊岡市は演劇のまちと合わせて、ジェンダーギャップの解消に向けた取組というのを大きな柱にしています。男性・女性の性差による不公平さだとか、処遇が違うというところがそもそも若い女性に選ばれていないのではないかと考えています。男性に比べて女性が全然帰ってこない、いったん大学進学などで出るのが、男性より女性のほうは半分ぐらいしか帰ってこない。それはなぜだろうというと、このまちで期待されてこなかったとか、働くところも事務的な作業しかやれない、自分の力が発揮できないのではないかと、というところを変えようと。そこをもう少し、女性もいながらにして楽しいというまちを作っていくことが子どもの数も増やしていくことにつながるのではないかと、というところで今やりかけています。

副分科会長

まずは子育ての支援が充実している、すごく育てやすいよということがあって、そこでどんな職業があるか、となるかもしれないので、ワンセットのものではないでしょうか。

事務局

今、プチ勤務と言って、短時間で働けるところですか、テレワークと言って、家にいながらにして、子どもを連れて数時間だけ事務所に寄るといような働き方も都会ではあって、なかなかこちらではないので、そういったものを豊岡で取り入れ、子育て中の女性が働きやすいとか、やりたいことがやれるという、そんな環境を整えていこうとしています。

副分科会長

明石で聞いたのは、保育士さんが働きやすいんですよ。そんなにしんどい目をしなくても、給料がすごく高いと。自由に選べるとか。まず、子育てのプロの保育士さんが働きやすかったらいいよね。施設もきれいだったら。施設整備にもどんどん補助を出しているかもしれないから。ちょっと調べておかれると良いと思います。

分科会長

(2)の意見交換会に入っているようなので、皆さん他にも、定住促進、共生ビジョン、自立というのがこの会のテーマですので、今回のものに関わらず、ご意見をいただけたらと思いますが、将来的な取組でも、何でも結構ですので何か。

委員

定住促進というか移住促進の中で、Iターンの人は、来るのは身軽だけど、出ていくのも身軽な人が多いです。それよりも、但馬で生まれ育った子どもが帰ってくるような、そういう施策を作ってほしいと思います。Uターンを増やすためにはどうしたらいいと言うと、3市2町もいろいろ考えるけれども、なかなか答えが出ないです。高校を出るときに、登録して、大学在籍中にメールを送っているところもあるようですが、それでもやはり響かないみたいで。もっといい何か方策はないかなと、何か指標に出るものがあればいいかなと思いました。相談のブースに来た人数ではなく、もっと何か知恵をひねって、いいものが出れば。

事務局

今、これとは別に豊岡市で地方創生の新しい総合戦略を来年度に向けて作る作業をしています。おっしゃられるように、Iターンではなく、Uターンをいかに増やすかというところも重要なポイントではないかと。そのためには、小中高を通じたふるさとを学ぶ機会をもっと充実させたほうがいいのではないかとという声も出ていますので、そういったことも視野に入れながら地方創生でも考えていきたいと思っています。

分科会長

私自身もUターンで、30歳ぐらいにこちらに帰ってきたのですが、結局、魅力ある職業があれば、いくらでも帰ってくる人は増えると思います。全部が帰っ

てくるとは思いませんが、例えば豊岡市役所の職員になれるから帰っておいでと声をかけたら、20代の子はいい確率で帰ってくると思います。結局、給料とある程度の職場が提供できれば、帰ってくると思います。文化とか教育も大事だと思いますが、一番はそこだろうと思って、僕らは観光で経済効果を多少でもよくして、いい雇用が生まれる取組をしたいと心がけて仕事をしています。

委員

和田山高校などは、学校の授業で、企業の人と話をするメニューを作っています。就職を念頭に置いて来られる学生が多いので、すごく意味があるのです。それが普通高校に行ってしまうと、そういうメニューを作っていないですね。但馬でどんな企業があるかを知らずに大学に行ってしまいます。大学に行くといろいろな企業があるから、アプローチがあればそちらに行ってしまう。進学が中心の高校でも在学中に地元の企業の方と話をするような、そういう機会を設けた方がいいかなと思います。

分科会長

今、大学の人気って、就職率ですよ。この大学を卒業することによって、いいところに就職できた、いい人材が育ったとなれば、たぶんどこにあっても大丈夫だと思います。専門職大学もしっかりとしたビジョンが描ければ、面白いことになるのかなと思います。

分科会長

だいたい出つくしたでしょうか。それでは、4の協議事項は、これで終了させていただきます。